

『平成30年度 美馬市医師会多職種連携研修会』を開催しました

日時:8月29日 午後7時から8時45分 場所:美馬市地域交流センター ミライズ 活動のハコ(旧パルシー)

今回のテーマは「人生の最終段階における医療とケア ～ACPから考える～」と題して、医療法人昭和の杜 木下ファミリークリニック(徳島市)木下英孝先生にご講演をしていただきました。

座長 谷口博美医師会長のもと、「人生の最終段階を、どこでどのように暮らし、どのような最後を迎えたいか」そして「大切な家族を、どこでどのように看取りたいか」木下先生のわかりやすい聴きやすいお話を拝聴しました。講義の中で「人生の最終段階を迎える事例のグループワーク」を5人ずつの19グループで実施しました。参加者は「目指すべき看取りの体制」として①自宅でも、病院でも、穏やかで幸せな最期を迎えられる体制づくり ②看取りをたらいまわしにしない ③看取りを見据えた高齢者医療を……の共通認識をしました。

<講演>

地域包括ケアシステムに求めること

◆「ホドホドの医療」と「ホドホドの介護」で「苦痛の少ない穏やかな余生」と「安らかな最期」を迎えられるように支える体制

アドバンス・ケア・プランニング(ACP)とは

◆将来の医療及びケアについて、患者さんを主体に、家族や近い人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合い、患者さんの意思決定を支援するシステム



学んだこと……

医療現場、介護現場そして地域住民が変わることが重要。そのそしてこのことをサポートするのは行政である。



定員72名の研修会場で、机を取っ払い椅子だけで98名、身動きできない状況でのグループワークでした。もっともっと皆で議論したかった……。